

全校／中学2年生社会科・全学年国語科・学活

新聞を身近に感じよう ～ 新聞の楽しさを見つけながら進める学習 ～

指定校1年次 長野市立三陽中学校 小島 悠 高橋武夫

(1) 本年度のNIE活動の概要

本校での学習は、学校教育目標『心豊かにたくましく生き抜く生徒』のもと、「自ら問いを立て、方法を考え、仲間と協働し、新たな価値を作り出す生徒」を育てることを目標に【探究学習の充実】を重点として、以下のような活動を特色としている。

- ① 探究学習や体験活動での協同的な学び
- ② 教科学習における個別最適な学び、個に応じた指導
- ③ キャリア教育の充実 ～地域の「人・モノ・こと」に学ぶ総合的な学習の時間

中でも、自学自習のチャンスを大事にしようと、主体性、創造性を育む「RST」（ライジング三陽タイム）と、その時間や家庭学習で取り組む「RW」（ライジングワーク）に取り組んでいるが、そこに新聞を利用した学習を取り入れることで、[新聞を身近に感じ] [新聞の楽しさを見つけながら] 学習を進めていくことができることを望んだ。

また、利用者数の多い図書館前に「新聞閲覧コーナー」を設置し、その新聞を利用し、社会科や国語科、理科といった授業や、生徒会活動を通して、新聞になじみが持てるように「スクラップコンテスト」や「平安時代新聞作り」「理科新聞コーナー」「生徒会新聞コーナー」などを設置してきた。新聞閲覧コーナーを利用する生徒も増え、新聞を身近に感じてきている生徒が増えて来ていることが確認される。

(2) 本年度のNIE活動をはじめる前の状況

本校は全校生徒574名、23学級（内特別支援学級6）の大規模校であり、生徒は一人一台の端末を授業で使うことが多い。授業では調べ学習や意見や学習成果の情報交換ツールとして利用していることが多いが、新聞そのものを授業で扱うことはほとんどなかった。

(3) NIE活動の狙い（育てたい力）

本校が重点として目指す「探究学習の充実」をはかるためには、自分に最適な学びの目標の設定や、学習を計画し、実行する力を育みたい。そのためには新聞を通して社会に目を広げ、自らが興味や問題意識を持った物事を、系統的に学ぶことをねらいとして、「RST」や「RW」のみならず、教科学習や、日常生活の中で、新聞を身近に感じて欲しいと願っている。

(4) 公開授業以外を含めたNIEの取り組みの状況

《NIE新聞閲覧コーナー》の設置

図書館前の「読売中高生新聞」の閲覧コーナーを拡大し、「NIE新聞閲覧コーナー」をもうけ、その日の新聞を6紙机上に並べ、奥には前日までの新聞を重ね、スクラップに利用できるようにした。



《新聞スクラップコンテスト》（全校 RST の時間、RW の利用など）などの実施



10月には「こんな記事を見つけちゃいましたコンテスト」私の「注目！」記事スクラップコンテストを実施。前者は、新聞にこんなことが載っているのという発見を募集。「総理大臣の一日」「卵などの価格」信濃毎日新聞でかわいい犬と赤ちゃんの記事などの小さな記事を発見した生徒に「小さくてかわいいで賞（ちいかわ賞）」を、中日新聞の「空き缶を顔にいくつつけられるか」という記事などを発見した生徒に「そんなバナナ賞」をあげた。生徒の感想では「新聞にはこんな記事があるのか」「珍しい小さな記事をさがすと、面白くてたくさんの記事を読んだ。」「普段新聞を読むことはないが、こんなにもいろんなことが書かれていることに驚いた。もっと新聞を読んでみようと思った。」などが挙げられた。その他、国語で『新聞の読み方講座』『平安時代新聞作り』を行った。

（５）公開授業などの活動内容

令和5年度 社会科学習指導案

日時・場所	令和5年11月29日(水)	2年2組教室
授業学級	2年2組(男子19(1)名、女子15(2)名 計34(3)名)	
授業者	小島 悠	

I 研究テーマ

学校教育目標	心豊かに たくましく生き抜く生徒
全校研究テーマ	「自ら問いをもち、五感を通して学ぶ生徒を育む学校づくり」
社会科研究テーマ	自ら問いをもつ生徒が育つ社会科の授業はどうあったら良いか。

II 学習指導案

1 単元名 中部地方～活発な産業を支える人々の暮らし～

2 単元設定の理由

2年2組は、明るく元気で、互いを認め合うことができる学級である。授業では、教科書や資料集から調べたことを基に、仲間と意見を交わし、意欲的に学習に取り組むことができる。また、日本の諸地域の学習では、探究的な学習として、単元を貫く学習問題を設定し、様々な地域的特色に着目しながら、地域的課題の解決策を考えてきた。例えば東北地方の学習では、「伝統産業や文化を守っていくためにはどうしたら良いか」という問いを設定した際、伝統産業や文化は東北地方だけにあるものではなく全国各地にあり、同じような課題を抱えているということに気づき、地元の祭りや伝統文化について、新聞記事から探していく中で、守っていくための取り組みをそれぞれが調べることができた。これらの学びの中で、地域特有の課題もあるが、他地域でも同じような事象が見られ、同じような取り組みが行われているということ結び付けて考えられるようになってきている。また、過去と現在を比較して、社会の変化に伴って新たな課題が生まれていることや、その課題を解決するために様々な新しい取り組みが必要であることも気づいてきている。しかし、はっきりとした根拠をもとに、自分の考えを持つことができていない。そして、社会の変化に伴う課題とその解決策を見つけることはできるが、これから先の

「未来」において自分自身も関係していくというような自分事として捉えられているのは、一部の生徒のみであるように感じる。

本単元では、中部地方の自然環境について大観したあと、中部地方の3つの地域が地形や気候がそれぞれ異なる地域であるということを基に、様々な特色ある産業が発達してきたことを学習する。その中で、私たちの住む長野県がグローバル化や少子高齢化、過疎化などを背景に、生活や産業の変化、新たな課題点を抱えていることについて、社会の変化やそこで生活する人々の思いなどと関連付けて多面的・多角的に考察して、近年の産業における課題点や新しい取り組みを新聞記事から調べ、私たちの住む長野県の未来の産業について考えていく。

本単元の指導では、必要感・切実感をもって学びに向かう姿を実現するために、導入場面で生徒の中に自然な「問い」を生ませたい。そのために、中部地方の産業が日本や世界に誇る産業でありながらも近年課題点も抱え、産業の維持が危ういといった新聞記事に触れることで、「私たちの住む長野県の未来はどうなってしまうのか」という思いが問いに繋がるように組み立てたい。また、信濃毎日新聞データベースを用いることで、ローカルな話題に触れられるようにし、自分たちの生活する長野県の現状と課題、様々な取り組みについて、新聞記事を根拠に自分の考えを持てるようにしたい。そして、Jamboard を用いて、調べた新聞記事を貼りつけ、付箋機能で級友ともに新聞記事に触れる場を設定することで、級友と対話する力を育てるのはもちろんのこと、新聞記事を過去と現在で比較する力や読み取る力を育てられるようにしたい。

3 単元目標と評価規準

(1) 単元目標

- ・中部地方のそれぞれの地域について、その地域的特色や地域の課題を理解することができる。
- ・産業を中核とした考察の仕方を基にして、中部地方のそれぞれの地域の特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生ずる課題を理解することができる。
- ・中部地方の3つの地域の自然環境や地域内の結びつき、人々の工夫などに関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択し、読み取っている。

【知識・技能】

- ・中部地方の産業の地域的特色を、地域の広がりや地域内の結びつき、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現することができる。

【思考力・判断力・表現力等】

- ・中部地方に関心をもち、その地域的特色を産業と関連付けて意欲的に追究しようとしている。

【学びに向かう力、人間性等】

(2) 評価規準

A 社会的事象への知識・技能	B 社会的な思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ○中部地方の産業の地域的特色と、人々の生活や地形や気候などの自然環境との関わりについて理解し活用している。 ○中部地方の3つの地域の自然環境や地域内の結びつき、 	<ul style="list-style-type: none"> ○中部地方の産業の地域的特色を、地域の広がりや地域内の結びつき、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○中部地方に関心をもち、その地域的特色を産業と関連付けて意欲的に追究しようとしている。

人々の工夫などに関する
様々な資料を収集し、有用な
情報を適切に選択し、読み取
っている。

4 単元指導計画（全5時間）

時	学習問題 ○学習活動・予想される生徒の反応	◇指導・評価
1	<p>○中部地方のイメージや知っていることを共有する。</p> <p>中部地方の自然環境にはどのような特色があるのだろう。</p> <p>○中部地方の地名を地図帳から調べる。</p> <p>○中部地方が3つの地域に分かれることを確認する。</p> <p>○3つの地域の自然・気候の特徴をまとめる。</p> <p>○本時の学習内容をまとめをする。</p>	<p>◇気候・自然環境について大観するようにする。</p> <p>◇既習事項を振り返ることで、中部地方が3つに分かれていること、それぞれの地域の気候の特徴をつかめるようにする。</p> <p>【A】</p>
2	<p>○中部地方の農業生産額、工業生産額を確認する。</p> <p>○既習の3つの地域の農業・工業の全国1位を探す。</p> <p>3つの地域の産業にはどんな特色があるだろう？</p> <p>○班で3つの地域の産業が、歴史的背景や地域性などに合わせて、それぞれの地域で特色ある産業が発達してきたことを調べる。</p> <p>○全体で共有する。</p> <p>○本時の学習内容をまとめる。</p>	<p>◇文化・人口・産業等について大観するようにする。</p> <p>◇3つの地域の産業について、教科書や資料集、インターネットを用いて自由に調べる中で、日本や世界に誇る産業がたくさんあることに気づけるようにする。</p> <p>◇各地域を比較することで、なぜその地でその産業が発達してきたのかを考えられるようにする。</p> <p>【A・C】</p>
3 (本時)	<p>○3つの地域の産業を復習する。</p> <p>○長野県の産業に関する新聞記事から、単元の学習問題を設定する。</p> <p>【単元を貫く学習問題】 これからの長野県を救える産業は何だろう？</p>	<p>◇復習をする中で、3つの地域では日本や世界に誇る地域特有の様々な産業が発達してきたことを思い出せるようにする。</p>
	<p>地元の新聞から近年の産業を調べよう。</p> <p>○信濃毎日新聞データベースから、近年の産業に関わる記事を探す。</p> <p>○各自見つけた新聞記事をそれぞれの班のJamboardに貼り付ける。</p> <p>○長野県の産業に関わる課題点や取り組みを書き出す。</p> <p>○本時の学習内容をまとめ、次時必要な新聞記事を考える。</p>	<p>◇中部地方の産業に関する近年の課題点や問題点に関する新聞記事を提示することで、これまで学んできた日本や世界に誇る産業のこれからの目を向けられるようにする。</p> <p>◇地元のことに限らず、インターネットにない情報も、新聞であれば調べられることを伝える。</p>
4	<p>○前時までの学習を班ごと振り返る。</p> <p>新聞から見つけた情報を整理しよう</p> <p>○Jamboardに書き出した課題点や取り組みを分類し、長野県を支えて行く上で可能性のある産業について、班ごと議論し1つに絞る。</p> <p>○振り返り</p>	<p>◇前時に各班で集めた新聞記事をJamboardに貼り、そこにみんなで付箋を貼りながら読み取れたことをまとめることで、新聞の読み取りが苦手な生徒も級友から学び、読み取れるようにする。</p> <p>◇読み取ったことをもとに、追加で新聞記事</p>

		を採る時間を取ることで、課題点に対する取り組みとして一番効果的であるのは何かというのを、より深く考えられるようにする。【B・C】
5	<p>○前時までの学習を班ごと振り返る。</p> <p>未来を支える産業を考えよう。</p> <p>○Jamboardに整理した課題点と取り組みから、長野県の未来を支える産業や具体策について、スライドにまとめ、班ごと考えをまとめる</p> <p>○全体で共有</p> <p>○単元の振り返り</p>	<p>◇班で1つに絞った産業について、根拠となる新聞記事の取り組みを準備するように声掛けする。</p> <p>◇長野県の地域的特色と課題点を再確認する中で、長野県の未来の産業やそれに関わる人々の生活はどうすればよいのか、自分の考えをもてるようにする。</p> <p>【B・C】</p>

5 本時案

(1) 主眼

中部地方の3つの地域が、自然環境や地域内の結びつき、人々の工夫、歴史的背景などにより、特色ある産業を発達させてきたことを追究してきた生徒が長野県の産業のこれからを考える場面で、長野県が抱える産業に関する課題点や今後起こりうる様々な問題に着目して、新聞から近年の長野県の産業に関する取り組みについて調べたり、調べたことをもとに班員と意見を交わしたりすることを通して、これからの長野県を支える産業について、新聞記事に書かれた事実を根拠とした自分なりの考えを持つことができる。

(2) 指導上の留意点

- ・新聞記事をJamboardに貼り付けるときは、時系列がわかるように新聞記事の発行日を記すように声掛けをする。

(3) 展開

段階	学習活動	予想される生徒の反応	◇指導・援助 評価	時間	資料
問題把握	1 前時までの復習をする。	ア 北陸、中央高地、東海の3つの地域に分かれていた。 イ それぞれの地域で様々な産業が盛んだった。	◇3つの地域ごと簡単に振り返り、それぞれの地域で特色ある産業が盛んであったことを思い出せるようにする。 ◇将来クラスの中の役半分はこの長野県で生活をしていくであろうことを伝え、生きていくためには「仕事」が必要であることに気づかせる。 ◇問い返しを行う中で、長野県の未来に目を向け、「どうすべきか」という問いにつなげられるようにする。	1	○学習カード ○新聞記事 ・EVの拡大 ・日本企業のEV遅れ ・鯖江の眼鏡新戦略 ・朝日村農業
	2 新聞記事から各地域の産業が課題を抱えていることを確認する。	ウ これから電気自動車の時代が来そうなのに、トヨタは電気自動車では世界に遅れを取っているのか。 エ 鯖江の眼鏡は安い中国産に押されて出荷額が下がり続けている。 オ 輪島塗の生産額と生産者も減少を続けている。		5	
	3 長野県の産業に関わる新聞記事を読み、学習問題を設定する。	カ 長野県で盛んな稲作や果樹栽培は地球温暖化の影響で生産できなくなるかもしれない。 キ 高齢化や担い手不足で、第一次産業・第二次産業では危機を迎えている。 ク 長野県の働く世代は今後どんどん減少していく。このままで大丈夫だろうか？		4	
	単元の学習問題：未来の長野県を救える産業は何だろうか？				

問 題 の 究 明	4 学習問題 に対する 自分なり の予想を もとに、追 究の見通 しをもつ。	ケ 自然が豊かだから自然を生かせる産業が 良いのではないか。 コ 農業が盛んだから、その中でも他の地域に はない何か新しい取り組みがあれば良い のではないか。 サ 人口が減少しているから、県外からも人を 呼び込めるような産業をつくれば良いの ではないか。	◇友と話し合うこと で、さまざまな考え があることを知り、 多くの視点で疑問点 を整理していけるよ うにする。	5	○学 習 カード
	学習課題 ：新聞から産業に関わる近年の取り組みを調べよう。			25	○新 聞 記事 ・昆虫食 諏訪から世界 へ ○Jamboard
	5 信濃毎日 新聞デー タベース から、長野 県の産業 に関する 記事を調 べ、記事か ら読み取 れること を書き出 す。	シ 担い手不足は全県様々な産業でみられる が、ボランティアを募っているところもある みたいだ。 ス 個人ではなく大企業などに働きかけること で担い手を確保して生産を増やしている ところもある。 セ 東京など大都市の人が農業に興味を持って オーナーになっている農家もある。 ソ 長野県のそばや漬物などの食文化を生か せる産業は、人を呼び込むことにつながる かもしれない。 タ 白馬は冬だけでなく夏の観光客が増えて いる。自然を生かせる観光業は今後伸びて いくかもしれない。	◇例として新聞の記事 を紹介することで、 インターネットには 載っていないような ローカルな話題が新聞 にはあることに気 づかせ、新聞から記事 を見つけられるよ うにする。		
6 記事から わかった ことを班 で共有す る。	チ 長野県には安い土地や空き家も多くある。 交通網の発達で工場や企業のオフィスと して誘致していくことで地域の新しい産 業を生めるのではないか。 ツ 中央新幹線の開通に向けて長野県内では 工事が進んでいる。今後長野県は都市と して発展していくかもしれないから商業施 設やレジャー施設などの産業が盛んにな っていくのではないか。	【評価】 新聞から近年の長野県の産業に 関する取り組みについて調べた り、調べたことをもとに調べた 意見を交わしたりすることを通 して、これからの長野県を支え る産業について、新聞記事に書 かれた事実を根拠とした自分な りの考えを持っている。 【思考・判断・表現】 (カードの記述内容)			
整 理 ・ 発 展	7 本時のま とめをし て、次時 調べる内 容につい て班ごと 整理する。	テ 担い手不足や高齢化などの課題点を抱え ているが、若い世代が惹かれる魅力もある のが長野県である。若い世代を呼び込める ような観光業や自然を生かした産業が伸 びていくのではないか。次回は観光業に関 わる記事を調べたい。	◇調べた記事を振り返 るよう声がけを行 い、現時点でどのよ うな産業が伸びてい きそうか考えを持て るようにする。	7	○学 習 カード Jamboard
	8 本時の振 り返りを 記入する。	ト 環境の変化に伴って農作物の生産にも影 響が出てきているが、逆にブランドとして 確立できる新種の作物があるのではない か。次回は県内の農作物の変化や近年の作 付けについて調べたい。	◇本時にわかったこと から、次時に必要な 情報・記事は何かを それぞれ整理するよ う声がけをする。	3	

(6) 1年間取り組んだ成果と課題

新聞を利用することで、社会に目が行き、世の中のことに興味を持つようになった。それ以上に新聞に興味を持つようになった生徒が増えた。新聞をよく見ると学習に利用できる情報は社会科や国語科、理科だけではなく、そのほかの教科にも使えそうな記事がたくさんあることに気がついた。また、データベースを使うことで、様々な情報が簡単に手に入ることで学習への興味がわくこともわかった。そこで、来年度は、是非その他の教科での新聞を取り入れた学習の研究を期待したい。